

平成25年度学校教育審議会委員意見（平成26年5月19日）

（平成25年度倉吉市教育委員会の重点施策の実績及び評価について）

【重点施策1】

倉吉市教育振興基本計画の進ちよく管理

倉吉市教育委員会の活性化

「倉吉市立小・中学校の適正配置等について」に基づく学校再編の推進

学校教育施設・教育施設の整備運営

- ・「学校再編の推進」の実績評価が「C」となっているが、教委の努力は評価できる。
- ・各施策とも的確に実施されており、評価に問題はなく客観的に行われていると思います。したがって、特に意見はありません。以下同様です。
- ・学校再編の地区説明会の意見をふまえて再検討しているかどうか。当初の再編案の押しつけになってはいないか。
- ・小中学校の適正配置については、市民との対話という形での精力的な活動が見られる。困難な面も多いが、今後の対話での丁寧な進展があれば良いと思う。
- ・実績に基づいた評価がなされている。
- ・誠実に、計画的な学校再編の道筋をたどっておられることは市民も認めているところと思う。市民個々の賛否の意見は、そろそろ固まったものと想定される。それが、シンポジウム・説明会等に対する積極的参加が少ない原因ではないか。再編に対し全員賛成を求めることは難しい。しかし、賛成意見が多数であれば、最終案を示し、賛否両論をまとめ、議会で最終決定をゆだねる時期を検討されてはどうか。
- ・学校耐震化進捗率の低さは学校再編と連動するものである。将来的な展望を考えれば、まず、学校再編を可能な校区から進めていき、新たな学校に対し、予算を充ててゆくことが現実的と思う。
- ・Bで妥当と思います。小中学校の適正配置の説明会においては、保護者の参加が少なく、今後学校を盛り立てていく世代の意見をもっと聞く必要があるかと思います。学校を応援する人をもっと増やす機会と捉えて各学校内においても、意見を吸い上げていくことに努めてはいかがでしょうか。

【重点施策2】

学力向上の推進

- ・中学校で全国値を下回っている。教科について改善してほしい。
- ・NRT・CRTの偏差値が高いことはよいが、全国値を下回っている科目について、努力目標として今後努力されたい。
- ・適正な評価がなされている。

- ・実績に基づいた評価がなされている。
- ・研究体制に学校格差がある点については校長の見識とリーダー性に負うところが多い。できるところから、授業改善や学力向上策を学校体制で協同して進める職員集団とできるかどうかである。
- ・予算面での支援を図ることも一方で必須である。ハード面への予算措置の割合が多く、研究推進に充てる予算措置が疎かになってはいないか。特色ある学校作り予算が10万円弱であるが、消耗品で消えてしまう。国・県費100%事業を利用することも方法であるが、教職員の意欲を削ぐような導入は慎重に。
- ・校区の教育力の差が学力格差につながる面がある。経済的に困難な家庭の教育費の軽減、あるいは、学校予算への優先措置による保護者負担の軽減などにより底上げを図ることが有効である。
- ・Bで妥当と思います。読み、書き、計算の基本はしっかり身につけさせたいものです。学力低下の子どもの底上げを望みます。本を読む、文章を書く、調べてまとめる、自分の意見を述べる等中学校では、小学校より更に伸びてほしい力ですが、なかなかそうはなっていないようです。学習習慣の定着具合、学習環境等の分析がより求められるかもしれません。

【重点施策3】

豊かな心とたくましい体の育成

- ・不登校について、小中連携を密にして出現防止に努める。
- ・不登校の解消についても、道徳教育についても、学校と家族の連携が必要不可欠だと思う。
- ・不登校になりやすい家庭環境（子どもへの接し方も含む）は、乳幼児期から顕著に現れている現状が見られる。就学前の保護者支援や子どもの心の育ちに適した関わりが随時必要と考える。学校教育との連携の大切さを感じる。（就学前の取り組みとして）
- ・不登校問題について、30日以上欠席の児童生徒を「不登校」としているが、小学校低中学年において、明確な理由もなく欠席がちな児童について早期に家庭との連携を図り、その要因と思われるものを解消していく相談体制が大切である。初期の軽い時期に親が気軽に相談できる身近なシステムを保護者に提供できると効果的と考える。家族関係、家庭内の課題の改善をアドバイスできる人材を充てることができるかどうか。
- ・中学生は進路に直結するものである。子ども支援センターの分教化は一方法である。指導する免許を持った教員の確保ができるか具体的な検討をお願いしたい。
- ・中学2年生の体力低下は、小学校時代は全員が陸上、水泳大会をめざし早朝放課後練習を継続したために、全体の体力向上があった。それに対し、中学校では部活動主体なので、文化部など運動量が少なくなる生徒の体力低下が平均値の低下に反映されるのでは

ないか。全員参加の継続的な体力作りの企画が必要である。

- ・ Bで妥当と思います。児童生徒一人一人が、心から愛されて育まれているのかというところに根本があると思います。学校だけでなく、様々な機関や地域の人とのつながりの中で、課題解決をしていく努力をしていかなければと思います。家庭との連携が難しいところですが、子どもたちのしなやかな心と身体をつくるためにもつながらなくては。

【重点施策4】

倉吉に誇りと愛着をもつ子どもの育成

- ・ 「くらよし風土記」の刊行は評価したい。「菜の花プロジェクト」の更なる盛り上げを期待したい。
- ・ 「くらよし風土記」の活用指導に期待します。
- ・ 適正な評価がなされている。
- ・ 適切に評価されている。
- ・ 「くらよし風土記」は郷土を学ぶきっかけになる優れた内容である。中学生で扱うには、1年生にはやや内容が高度である。実際にその場に出かけ、記事の内容を確かめるような、地域探訪や自然観察を3年間で計画的に行うことが望まれる。地域の人材の活用を図り、地域の方々との交流も副次的に大切な要素となる。
- ・ 「倉吉検定」については、ペーパーのみならず、地域外の方や観光客を想定してガイドができるレベルを測るものを考えてほしい。地域の観光ガイドの育成、中高生ガイドの育成もできれば、将来的に地元で次世代に歴史や文化を伝える人材育成ができる可能性がある。
- ・ 本年度は実践事例を集め、情報交換を図るとともに、活用を広げる。
- ・ 菜の花プロジェクトは歴史を重ね定着してきた。さらに広げて春夏秋冬季節に限定なく、地域の自然や文化、花々に関心を向けるウォーキングコースの設定とその利用を図ること。子どもも大人も参加できる日常的な健康維持・体力作りを兼ねた運動につなげたい。
- ・ Bで妥当と思います。「くらよし風土記」が発刊されてとても良かったと思います。これをどう活用するか、地域の人もどんどん学べるものにしたいですね。保護者も倉吉のことを知らない人が多いと思うので、子どもたちと共に学べるとよいですね。

【重点施策5】

家庭・地域と連携した開かれた学校づくり

- ・ 学校と公民館の連携を密にする必要がある。PTA組織の活用。
- ・ 意欲的な情報発信がなされていると感じる。
- ・ 適切に評価されている。

- ・教育を考える会などとおし、地域の方々の学校への協力体制は充実し、定着してきた。子どもの地域への貢献をどのように図るかが課題。中高生であれば、一人前の地域の住人として扱うことが重要な要素。生徒が大人のプライドを持って貢献できる内容を与えたい。学習や部活動の成果が生かされるものや自分の得意分野が役に立つものを考える。
- ・地域行事・活動に子どもたちを参加させるためには年間計画を明確にし、子どもたちの活動とのすりあわせを図ること。児童生徒も予定があるので、学校関係者との協議の場を持つことが必要である
- ・Bで妥当と思います。地域との連携、開かれた学校づくりという点では、学校によって差があることを感じています。また、家庭との連携においても、まだまだ工夫の余地があるのではないのでしょうか。保護者対応が難しくなっています。対応のスキルを身につけることも必要になってきました。

【重点施策6】

よりよい倉吉教育を目指して

- ・「教育を考える会」のテーマを教育委員会で年度ごとに決めて実施されたらどうか。
- ・適正な評価がなされている。
- ・適切に評価されている。
- ・小学校就学前の支援体制は充実してきた。
- ・特別支援教育の専門性を持つ教員と、そうでない教員の差が大きい。特に中学校では特別支援学級の担任経験者か否かで差がある。全職員が個別の事例を共通理解する体制を構築する。例えば、授業にTTで入る、参観するなど直接個々の実態を理解したうえで
の支援会議を行う。
- ・Bで妥当と思います。福祉と教育との連携もスムーズになってとても良い取り組みが行われていると思っています。特別支援教育を受けている児童生徒たちに対して、まだまだ周囲の理解がないと感じる場面に出会うことがあります。当事者の子どももですが、周囲への啓発にも努めて欲しいと思います。

【重点施策7】

給食の充実、食育の推進

- ・全体的にB評価が大部分であるが、A評価が1つでも多くなるよう努力されたい。
- ・栄養教諭の指導が定着し、保護者にも子どもにも分かりやすく指導がなされていると感じる。
- ・適切に評価されている。
- ・児童生徒の食に対する意識が向上したことは確かである。小学校高学年、中学生は、さ

らに自らが望ましい食生活を実践する取り組みを行う。すでに久米中が取り組んでいる「自作弁当持参の日」など、給食のない日に年に数回全市で取り組んではどうか。

- Bで妥当と思います。食育、食物アレルギーの問題も家庭との連携は欠かせません。引き続き、家庭や関係機関とも連携しながら、啓発に努力したいものです。身心の健康は食に左右されていることを痛感しています。

【その他感想等】

- 全体を通して「審議会」に欠席がちであったので自己評価に対する意見を述べる情報がありません。感想程度になったことをお許してください。